

カラスムギ

イネ科，一年生（越年生）



麦類の強害雑草で、本県でも連作ほ場で発生面積が増加傾向であり、収穫放棄された事例もある。また、種子が大きく、収穫物への混入が問題となっている。なお、飼料作物のエンバクと誤認されることが多いが別種である。

発生期間	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月

※本県での詳細な発生期間は未確認



形態的特徴	<p>麦類との違いは、葉耳がないこと、葉身が反時計回りに捻れること、やや白っぽいことである。穂は円錐形で、小穂は下向きに垂れ、芒が長い。穂は初めは灰緑色だが、熟すと黄白色となる。</p>
生態的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・湛水条件では種子が短期間で死滅するので、ブロックローテーション地域では蔓延しない。 ・種子が大きく、10cm以上の深さからも出芽が可能である。 ・出芽期間は長い(本県での出芽期間は未確認)。
化学的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・種子が大きく、出芽深度が大きく、出芽期間が長いので、土壌処理剤の効果が低い。
耕種的防除法	<ul style="list-style-type: none"> ・侵入初期に手取り除草を徹底する。 ・播種前に発生した個体が再生しないように、耕起作業を丁寧に行う。 ・湛水条件で種子が短期間で死滅するので1年間水稲へ作付け転換する。 ・晩播により出芽期間を短くする。
備考	<p>★連作ほ場では有効な防除法がないので、侵入初期に徹底防除する</p> <p>※防除法はネズミムギに準じると考えられるが、畑状態ではネズミムギより種子の寿命が長く、出芽深度が大きいことから、連作ほ場での防除はより難しい。</p>